

図書館通信 10月号 宇東図書館委員会

秋も深まり、ノーベル賞受賞者発表の季節になりました。がん免疫療法の開発でノーベル医学・生理学賞に輝いた本庶佑氏。その会見や取材で語られる言葉を通して、独創を貫き「道なき道」を歩む研究者としての生き方に触れ、感動を覚えた人も多いのではないのでしょうか。

さて、今月号ではノーベル文学賞にちなんで、今年新設された文学賞にノミネートされながらも、「執筆に専念したい」とそれを辞退する、世界から注目され続ける村上春樹さんの作品を紹介したいと思います。

村上春樹といえばこの作品！

発売から約20年で1000万部を超えるベストセラー



『ノルウェイの森』 村上 春樹 著

暗く重たい雨雲を潜り抜け、飛行機がハンブルク空港に着陸すると、天井のスピーカーから小さな音でビートルズの「ノルウェイの森」が流れ出した。僕は1996年、もうすぐ20歳になろうとする秋の出来事を思い出した。

村上春樹が贈る、限りない喪失と再生を描く究極の恋愛小説。

英語版も出版！！今期注目の作品



『騎士団長殺し』 村上 春樹 著

友人の父親である日本画家のアトリエに借り暮らしをすることになった肖像画家の「私」は、アトリエの屋根裏であるものを発見する。それは、「騎士団長殺し」というタイトルの日本画だった。

それをきっかけに「私」は様々な事象が連鎖する不思議な出来事へと巻き込まれてゆく。

ミリオンセラー確実と言われる待望の一冊！

今年10月9日に米国で英語版が出版されました。

16日の米紙ニューヨーク・タイムズ電子版に「期待外れだった」と辛口の書評が掲載されました……。読み手によって様々な意見があり、評価も分かれるようです。

読売文学賞小説賞受賞作品



『ねじまき鳥クロニクル』 村上 春樹 著

「僕」と妻の「クミコ」との結婚生活は平穏に過ぎていた。しかし、飼っていた猫の失跡をきっかけに、少しずつ2人のバランスが狂い始める。

ある日、クミコは何も言わずに姿を消した。僕は奇妙な人々との関わりの中で、やがてクミコの失踪の裏に、彼女の兄「綿谷ノボル」の存在があることを突き止めていった——。全3部からなる、長い長い年代記。

作家 村上 春樹

1949年、京都府生れ。早稲田大学文学部卒業。

1979年、『風の歌を聴け』でデビューし、群像新人文学賞を受賞した。

今回紹介した本の他にも、『1Q84』や『海辺のカフカ』、野間文芸新人賞を受賞した『羊をめぐる冒険』など多くの有名な著書がある。

